

福祉サービス第三者評価結果報告書 【児童福祉分野（保育所）】

【受審施設・事業所情報】

事業所名称	アミリア保育園		
運営法人名称	社会福祉法人アルマ会		
福祉サービスの種別	保育所		
代表者氏名	園長 小澤 昌代		
定員（利用人数）	90名（90名）		
事業所所在地	〒580-0004 大阪府松原市西野々1丁目9-3		
電話番号	072 - 336 - 0606		
FAX番号	072 - 336 - 0605		
ホームページアドレス	http://www.alma.ed.jp/amiria/index.html		
電子メールアドレス	mmalma@nifty.com		
事業開始年月日	平成24年4月1日		
職員・従業員数※	正規	19名	非正規 4名
専門職員※	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士 17名 ・調理師 1名 ・看護師 1名 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士 1名 ・調理補助 3名 	
施設・設備の概要※	[居室]		
	[設備等] ・保育室（6室） ・調乳室 ・沐浴室 ・プレールーム（給食室） ・保健室 ・更衣室 ・相談室 ・子育て支援室		

※印の項目については、定義等を最終頁に記載しています。

【第三者評価の受審状況】

受審回数	0回
前回の受審時期	年度

【評価結果公表に関する事業所の同意の有無】

評価結果公表に関する事業所の同意の有無	有
---------------------	---

【理念・基本方針】

【保育理念】

社会福祉法人アルマ会は、「子ども達の幸せを願う」という想いを法人理念とし、運営施設であるアミリア保育園においては、かかわる職員皆が「この思い」を乳幼児保育に反映実践させる。

【保育方針】

「感謝の心」「思いやりの精神」「人を信じる広い心」「あきらめない精神」「人と関わり合うことの喜び」を伝え導く保育

【施設・事業所の特徴的な取組】

アミリア保育園の特徴的な取組として下記の3点をあげて日々の保育に励んでいます。

①保育時間の中で、外部専門講師による「学習」「絵画」「ダンス」「体操」「おかし作り」等の指導を取り入れています。様々な経験の中から一人ひとりが、自分の好きなことや興味のあること、得意なことを見つけ、積極的に活動し自信を持てるようにとの思いです。

②英語の時間は、ネイティブの講師とゲームなどで楽しく英語に親しみます。また、英語の時間以外にも給食と一緒に食べる等、英語を日常生活でも親しんでいます。

③動物と触れ合うことの経験の大切さから年に一度、乗馬体験を取り入れています。大きな馬に乗って、園庭を回ると最初は怖がっていた子どもも、自信をもって、背筋を伸ばして乗れるようになります。

【評価機関情報】

第三者評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
大阪府認証番号	270012
評価実施期間	平成27年10月21日～平成28年3月29日
評価決定年月日	平成28年3月29日
評価調査者（役割）	1401C048（運営管理・専門職委員） 0801C001（運営管理・専門職委員） （ ） （ ）

【総評】

◆評価機関総合コメント

平成14年11月社会福祉法人アルマ会が設立され、アルマ保育園に続いて、平成24年4月アミリア保育園が開設された。

「アルマ」はスペイン・ポルトガル語で「こころ（魂）」の意を持ち、その意をどのように反映させるかを常に考えながら保育所の運営をしている。当法人理念の「子ども達の幸せを願う」というこの想いを保育や施設運営に反映させるため職員が「こころ」を一つにしてあたるとしている。

保育園は高速道路と鉄道が側を通り、会社や工場が立ち並ぶところに位置し、子どもたちが遊ぶ公園などには、少し離れ、距離があるが、園内では、運動できる場を1階2階に設け、子どもたちが伸び伸び活動できる場を作っている。

保育園の前には、消防署があり、災害時の避難施設になっていることから、保育所でも災害時の園開放を視野に入れている。

◆特に評価の高い点

採光や換気、保温、清潔等の環境保健に配慮された園舎で、子どもたちが、のびのびと活動し、健康的な生活ができています。また、園周辺の立地条件を考えられ、園庭を、1階と2階（芝生）に設け、それぞれを有効に活用している。

例えば、午睡と食事が、別室で行えるなど基本的な生活習慣の確立に向けた保育がされ、年齢を超えた交流を進めている。

絵画・ダンス・英語等専任講師を迎え、情操教育に力を入れている。

看護師・栄養士がそれぞれの専門性を生かし乳児保育や食育活動にあたっている。

職員のほとんどが常勤で、年齢構成もよく、職員のチームワークの良さがうかがえる。

◆改善を求められる点

職員の状況や希望に応じて研修は行われているが、園としての総合的な研修計画を作成して実施すること望む。

現在行われている、地域交流をさらに発展できるよう地域への出向き、共に保育園の有する機能を活用して交流を進められることを期待します。

◆第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回はいろいろなご指摘、アドバイスをいただきありがとうございました。
大変良い勉強、経験になりました。
これからも職員一同、評価結果が生かされるよう努力してまいります。

◆第三者評価結果

- ・別紙「第三者評価結果」を参照

第三者評価結果

評価対象 I 福祉サービスの基本方針と組織

		評価結果
I - 1 理念・基本方針		
I - 1 - (1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
I - 1 - (1) - ①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
(コメント)	理念は法人の信条を的確に表現しており、職員の行動規範・保育課程に明確に明文化されている。パンフレット・通園しおり・ホームページ等にも記載されている。 子どもたちの幸せを願う法人の思いが職員、利用者に周知されている。	

		評価結果
I - 2 経営状況の把握		
I - 2 - (1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
I - 2 - (1) - ①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
(コメント)	園長は大阪市や松原市の社会福祉団体に参加するなど社会活動に積極的に参画しており、外的動向の把握に努めている。 得られた情報は理事会・主任・職員会議などで討議されている。さらに、事業計画の策定に際して組織体制の具体的な現状分析の上に立ってなされる事を期待したい。	
I - 2 - (1) - ②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a
(コメント)	経営状況の分析をし、在園数は安定している。 設立当初（23名）より定員数は（90名）に増員され入園を希望する地域住民のニーズに応えるべく努力している。また職員の年齢層も幅広く定着率も高い。保育士もゆとりを持った体制で保育に当たっている。	

		評価結果
I - 3 事業計画の策定		
I - 3 - (1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
I - 3 - (1) - ①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
(コメント)	法人全体としての中・長期計画を基に保育所の中・長期計画が策定され、それを踏まえた事業計画が策定されている。さらに施設の増改築も視野に入れ様々な計画が明確にされ、取り組みがされているが、具体的な財務分析及び、資金使途の明確化がなされることが望まれる。	

I - 3 - (1) - ②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
(コメント)	単年度計画には具体的な分析と方向性が明記されているが、数値目標や人材確保など具体的な成果などを設定する実施状況の評価が望まれる。	
I - 3 - (2) 事業計画が適切に策定されている。		
I - 3 - (2) - ①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
(コメント)	事業計画は、園長が策定し、法人の決裁を経て職員へ配付し、職員会議などで説明し、検討している。計画策定には職員の要望・提案・改善など思いを聞き入れる場を設けるなどボトムアップ方式が取り入れられ、評価・見直しに繋がっている。 評価見直し後を文書にて職員へ配付し確かな周知をされる事を期待する。	
I - 3 - (2) - ②	事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	b
(コメント)	事業計画は、新規事業・施設利用条件時に、利用者に不便・不利益などが予測される場合には理解を求め、説明している。 また新年度入園時に入園しおりなどで周知を図っているが、さらに理解を得るため、保護者会・毎月発行される保育しおり・ふれあい保育などを通じて利用者に丁寧な説明の徹底が望まれる。	

		評価結果
I - 4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組		
I - 4 - (1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
I - 4 - (1) - ①	福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
(コメント)	組織的に職員の自己評価表を作成し毎年実施している。さらに今回は第三者評価に取り組む選択をした。 保育内容や保育課程の見直しには職員も積極的に参加した会議をしている。評価、分析に基づく福祉サービスの質の向上に繋がっている。	
I - 4 - (1) - ②	評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
(コメント)	課題の改善策や計画については評価結果に基づいた改善策、実施計画がある。実施については具体的な記録保存もされることが望まれる。また課題改善は継続が必要であり、さらに中・長期計画への反映をされることが望ましい。	

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

		評価結果
Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ		
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
Ⅱ-1-(1)-①	管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
(コメント)	園長の役割と責任は、保育園規則の中の(職務)で記載されている。日常の運営では週案・月案・職員会議での意見表明や機会あるごとに職員と意見交換を持ち、理解を深めている。	
Ⅱ-1-(1)-②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
(コメント)	関係法令の変更などについては周知し、保育関係団体・時事通信会議・金融機関主催等多彩な研修会、勉強会に参加して、対処するための協議を行う仕組みが出来ている。 また松原市民間保育園、園長会や研修会・勉強会に参加している。	
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
Ⅱ-1-(2)-①	福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a
(コメント)	福祉サービスの質の向上に向け、職員配置に配慮されている。職員の内外の研修や勉強会にも積極的に参加を促し、充実を図り、伝達講習も職員会議で実施している。	
Ⅱ-1-(2)-②	経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a
(コメント)	園長は常に職員が働きやすい環境整備などに努め、職員の福利厚生、有給消化率、人員配置などに配慮している。経営改善に向けて計画の実効に着手し、その高い指導力を遺憾なく発揮している。	

		評価結果
Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成		
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
Ⅱ-2-(1)-①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
(コメント)	就業規則を定め、人材確保の計画が進められ、日常の業務の中でも、職員の健康状態に配慮している。 個人評価表の活用や、研修計画の中での課題と見直しに取り組んでいる。	
Ⅱ-2-(1)-②	総合的な人事管理が行われている。	a
(コメント)	総合的な人事管理が法人の理念・基本方針を踏まえて文書化され、人事考課制度や職員の処遇など様々な取り組みが実施されている。	

II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

II-2-(2)-①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
(コメント)	職員の勤務体制を3グループに配置し、変則三交代制勤務を実施し効率を上げている。園長は常に職員の健康状態・行動・態度・表情など観察して、いつでも職員が声を掛け易い職場環境整備して、相談室を設置している。 職員間はチームワークが良く常にコミュニケーションを取って充実感のある職場づくりに努めている。	

II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

II-2-(3)-①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
(コメント)	職員の育成に向けて、研修計画に基づき研修を実施し、その成果を広く職員会議において伝達講習を実施している。一人ひとりに応じた能力を伸ばす取り組みとして、個人の目標設定や、研修計画、評価表の作成が望まれる。	
II-2-(3)-②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
(コメント)	事業計画で研修計画が立案され、その年度の課題に沿ったスキルアップの方法で綿密に進められているが定期的に、研修内容やカリキュラムの評価、見直しが見られる。	
II-2-(3)-③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b
(コメント)	年度の研修計画に基づき全職員就業時間内での教育・外部研修・内部研修等の機会が確保されている。園独自の個人研修計画作成し、取り組むことが望まれる。	

II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

II-2-(4)-①	実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
(コメント)	実習生受け入れに対してマニュアルも整備され、十分な話し合いを基に、受け入れ体制も完備し取り組みがなされているが、保育園としての実習生の目的や職種等に考慮したプログラム・オリエンテーション・実習指導者及び担当者の体制等を組織全体として取り組むことが望まれる。	

評価結果

II-3 運営の透明性の確保

II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

II-3-(1)-①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
(コメント)	法人のホームページに事業の収支報告書が掲載され、透明性への担保がなされている。保育実践に当たっては、ふれあい保育期間を設けて、利用者が保育参加できる体制を確立して、利用者がいつでも要望や改善を求めやすい環境整備を確立している。	

II-3-(1)-②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
(コメント)	経営規程を整備し、それに基づいて経理処理を実施している。年1回公認会計士による指導や指摘事項に基づいて経営改善を実施している。法人の監事も実施している。	

	評価結果
--	-------------

II-4 地域との交流、地域貢献

II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。

II-4-(1)-①	利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
(コメント)	地域との交流は、地域の老人施設（デイサービス）への訪問・中学校への運動会見学・中学校のバザーのポスター貼り等、機会があるごとに積極的に交流している。 さらに地域性を考慮して、地域の老人会・婦人会・ボランティア・休日園庭開放等地域の方を園へ招待して、地域との交流を深める取り組みが望まれる。	
II-4-(1)-②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
(コメント)	ボランティア受け入れのマニュアルが整備され、活用に向けた取り組みがなされている。中学生の職場体験や民生委員の手品などが実施されているが、さらに一層工夫されたい。	

II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。

II-4-(2)-①	福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
(コメント)	関係機関の連絡先をリストアップし、必要な利用者に提供できるように準備され、連携が行われている。大阪市民団体等へ参加し情報の収集及び連携に取り組んでいるが関係機関との連絡連携を望みたい。	

II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

II-4-(3)-①	福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	a
(コメント)	園庭開放・一時保育・子育て支援電話相談など、地域のニーズに合った取り組みを積極的にしている。保育園の前には松原市の消防署があり、災害時には避難場所になっていることから、保育園でも災害時には園開放を視野に入れている。	
II-4-(3)-②	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
(コメント)	保育園は延長保育を夜8時までの実施している。自主事業として一時保育を実施している。さらに地域の民生委員・児童委員等と定期的な会議や具体的な福祉ニーズの把握に努めることが望まれる。	

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

		評価結果
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス		
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
Ⅲ-1-(1)-①	利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
(コメント)	園の運営規程や園規則で定めており、園長は常日頃、園の基本方針に沿ったサービスの提供について、利用者からの意見を聴く機会があった場合には職員会議や勉強会を開催し、共通理解のための取り組みも行われている。常に利用者の立場に立った保育サービスを提供できるように指導している。	
Ⅲ-1-(1)-②	利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a
(コメント)	プライバシー保護の規程や職員研修、書類などの保管など、マニュアル等で明確にされ、取り組みを利用者の家族に周知している。保育園や他の事業所においてプライバシー保護や権利擁護に関わる事例を把握した際等には職員会議や研修会等で対応方法など検討、記録し、注意喚起している。	
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
Ⅲ-1-(2)-①	利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a
(コメント)	園の方針は、入所前後の説明会や個人の質問への丁寧な対応で、利用者にも周知されている。また園紹介のホームページ・保育園案内の冊子などで関係すべき情報を公開している。入所希望者・見学者などへは園内施設を丁寧に公開し説明している。	
Ⅲ-1-(2)-②	福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	a
(コメント)	入園前の説明会を通じて、利用者への適切なサービスをわかりやすく、前もって知らせるとともに、情報収集を密にして、状況に応じては利用者にも寄り添うように見直し理由も説明し協力を得るように配慮している。	
Ⅲ-1-(2)-③	福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a
(コメント)	小学校との連携もあり、保育終了時や期間満了時など状況に応じた情報を発信し、不安なく次への移行が行えるよう手立てを講じている。	
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
Ⅲ-1-(3)-①	利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
(コメント)	職員会議などで保育の見直しや新たな課題に対する取り組みや園の行事ごとに利用者のアンケートを実施し、意見を収集し、集約して、実践に生かせるよう体制の整備に努めている。	

Ⅲ- 1 -(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。

Ⅲ- 1 -(4)-①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
(コメント)	苦情申出書を作成し利用者が持ち帰り易い場所に設置している。苦情解決の体制が整備され、掲示もしている。 また苦情・事故に対しても迅速に公表し、改善策も提示している。月案の会議では職員の意識改革のため討議をしている。	
Ⅲ- 1 -(4)-②	利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a
(コメント)	利用者個人懇談週間を年2回設け、相談したい職員を指名できる体制を取っている。ふれあい保育期間の参加時も受け付けている。相談室を設置し利用者が職員に相談をしやすい雰囲気づくりにも取り組んでいる。	
Ⅲ- 1 -(4)-③	利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
(コメント)	利用者からの苦情・要望・提案などに対しては連絡帳や口頭で知る体制を取っている。職員会議・個別に懇談などを踏まえて検討され、誤解のないよう丁寧にかつ、迅速に報告し対処している。今後対応マニュアルの作成が望まれる。	

Ⅲ- 1 -(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。

Ⅲ- 1 -(5)-①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
(コメント)	ヒヤリハットの記録簿など情報共有し、問題点の整理と再発防止に向けた体制が確立されている。しかしリスクマネジメントの委員会が設置されておらず、責任者の明確化が望まれる。	
Ⅲ- 1 -(5)-②	感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
(コメント)	看護師を中心として、感染症発生の予防マニュアルを整備し、より快適な生活の維持のための努力がなされている。またマニュアルの定期的な見直しも実施されている。	
Ⅲ- 1 -(5)-③	災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
(コメント)	災害発生時における利用者への対応が確立されており、職員への周知、利用者への周知がなされている。いろいろな災害を想定しマニュアルや備蓄品の整備も整っている。月1回災害を想定し訓練が実施されている。パトカーの巡回も受けている。	

		評価結果
Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保		
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
Ⅲ-2-(1)-①	提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a
(コメント)	保育課程が綿密に立案され、それに基づいた計画が実施されている。また日々の振り返りの中にも、PDCAサイクルPlan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）を活用して実践される体制が構築されている。	
Ⅲ-2-(1)-②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
(コメント)	保育計画の実施に際し、職員や利用者等からの意見や提案に基づき、また個別的なサービスの実施計画の状況等から、PDCAサイクルを活用した職員会議や計画策定がされている。	
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
Ⅲ-2-(2)-①	アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画を適切に策定している。	a
(コメント)	基本理念を踏まえた諸計画の立案がなされ、月間保育内容、週間保育内容を作成し週間保育内容については提示している。月末には担当者から反省や評価の報告がなされている。支援が必要な利用者には支援を検討し職員間で共有している。	
Ⅲ-2-(2)-②	定期的に福祉サービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a
(コメント)	保育課程を基に月案・週案・日案それぞれの作成過程には、詳細な記録を参考とする仕組みを作り、反省・見直しが組織的に実施されている。	
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
Ⅲ-2-(3)-①	利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
(コメント)	職員会議などで、子どもたちの状況について十分周知徹底され、記録にも残されて今後の指導の手立てとして活用されている。	
Ⅲ-2-(3)-②	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a
(コメント)	個人情報保護規程に基づき、個人票、健康記録、育成調査票などの記録の管理は、保管場所保管方法（鍵の掛かる）、扱いに関する規程、責任者の設置、保管等規程が定められている。	

児童福祉分野【保育所】の内容評価基準

		評価結果
A-1 保育所保育の基本		
A-1-(1) 養護と教育の一体的展開		
A-1-(1)-①	保育所の保育の方針や目標に基づき、発達過程を踏まえ、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に即した保育課程を編成している。	b
(コメント)	保育課程は、理念・保育方針や目標に基づいて編成し、全職員で、事業計画にも反映しているが、今後、定期的に評価し、再評価に基づいて、職員全員が参画したものに構築していくことが求められる。	
A-1-(1)-②	乳児保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	a
(コメント)	看護師が、乳児クラスに積極的に入り、健康への配慮や指導にあたり子どもの発達を促している。専門性の発揮で、保育士や保護者の安心につながっていることは大きい。 離乳食やアレルギー対応食についても、栄養士も加わり三者懇談を実施し、きめ細かい対応を行っている。 午睡チェックを0・1歳は5分、2歳は10分毎に行い記録し、事故防止に努めている。 最も成長の著しいこの時期の子どもたちの成長する姿を保護者とともに喜び、共感できるように心がけている。	
A-1-(1)-③	1・2歳児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	a
(コメント)	家庭との信頼関係が最も必要で、大切にしなければならない時期と考え、子ども・保護者を温かく見守ることを心がけている。 子どもたちの発達状況を見て、1歳児は概ね10月頃より、2・3歳児と一緒に昼食をしたり、2歳児クラスになれば、昼食・おやつは3歳児クラスと一緒にとるようにするなど、クラスを越えた交流や、進級へのきめ細かい配慮をしている。	
A-1-(1)-④	3歳以上児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	b
(コメント)	屋外での遊びを中心にしながら、学習・絵画・体育指導・ダンス・英語など専門講師による指導保育も年齢に合わせて取り入れている。 行事等を通して、興味や好奇心・達成感がえられるよう工夫している。 一階に砂の運動場・二階に芝を敷き詰めた運動のできる広いスペースがあり、子どもたちが伸び伸びと活動できる場となっている。さらに、創造性豊かな感性を育てるうえでも、お話や絵本の世界を広げようと考えられている。 地域の整備とともに、散歩等戸外に出る機会が増やされることも望まれる。	

A-1-(1)-⑤	小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかかわりに配慮されている。	b
(コメント)	<p>松原市より小学校へ行く機会が計画され、校内見学や給食・小学校体験をしている。</p> <p>しかし、保育者と小学校教員との、計画的な交流や合同研修などはまだ計画できてなく、今後の課題である。</p> <p>保育所内においては、専門講師による学習保育を4歳より実施して学ぶという姿勢作り、就学への期待につなげている。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育		
A-1-(2)-①	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的・物的環境が整備されている。	a
(コメント)	<p>子どもの世界でもある保育園ゆえ、子どもの視点で環境を整えるよう工夫している。</p> <p>子どもたちの保育室は、一階に設け、異年齢の関わりや保護者の送迎をしやすくなっている。そして、調理室・ランチルームを二階に設け、子どもたちが、食事と午睡が、同室でなく、子どもたちに心地よい生活空間が保障されている。また、災害時の安全対策にも功をなすよう考えられている。</p>	
A-1-(2)-②	子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるような環境が整備されている。	a
(コメント)	<p>基本的な生活習慣は、規則正しい生活をすることから始まるので、保育者は前もって、準備等に配慮し、園での生活は、概ね時間通りに保育を進めている。</p> <p>流れに自然に添えるよう配慮し、子どもたちが自発的に行動できるよう見守り導いている。</p>	
A-1-(2)-③	子どもが主体的に活動し、様々な人間関係や友だちとの協同的な体験ができるような人的・物的環境が整備されている。	a
(コメント)	<p>園庭には子どもの発達に合わせて使用できる遊具や用具が整備され、子どもたちの遊びを楽しく豊かなものにしていく。</p> <p>ルールのある遊びを通して、ルールを守るゆえの楽しさが伝わるよう配慮している。</p> <p>行事等は、子どもたちが主体となるよう進行係を務めたりしている。</p> <p>子ども同士のトラブルには、必ず理由があるので、その理由を丁寧に尋ね、相手に想いを寄せて考えるようアドバイスして仲立ちをしている。</p> <p>園の5つの約束事を毎朝子どもたちが言い、この意味を行事等のテーマ採用することで、理解を促す機会を持っている。掘り下げて話すことに心がけ、社会ルールを心で感じてもらえるよう配慮している。</p>	
A-1-(2)-④	子どもが主体的に身近な自然や社会とかかわれるような人的・物的環境が整備されている。	b
(コメント)	<p>金魚の飼育や植物・園庭の芝生等自然に保育所の生活に密着している。年1回乗馬クラブから馬を借り園児が馬に乗る体験をしている。</p> <p>春夏秋冬の風景を同じ公園に散歩することで、季節の景色の違いを体験し、そのことを制作活動に導いている。</p> <p>伝統行事や昔の遊びを敬老の日になんで、祖父母に触れあい保育の中で教えてもらう機会を作っている。これらの経験を今後更に増やされることを期待する。</p>	

A-1-(2)-⑤	子どもが言葉豊かな言語環境に触れたり、様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的環境が整備されている。	b
(コメント)	<p>英語遊びは設定保育の中で実施している。担当職員が常勤であるから、その時々で英語を話す機会がある。</p> <p>運動会やアート展・音楽会・生活発表会の大きい行事には、日々の設定保育の成果が発表できるよう配慮している。</p> <p>絵本の読み聞かせは保育の中で、積極的に行っている。紙芝居などは季節に合わせたものを選んでいく。</p> <p>更に、検討を加えられている幅広い絵本・良質なおはなしに触れる機会を増やされることを望む。</p>	
A-1-(3) 職員の資質向上		
A-1-(3)-①	保育士等が主体的に自己評価に取り組み、保育の改善が図られている。	a
(コメント)	<p>一週間の振り返りをするため、その週の自己評価・クラス評価をしている。保育者自身の導きが子どもにとってどうであったかを子どもの目線で振り返っている。</p> <p>一人ひとりに向き合うことが難しいことがあるゆえ、反省することは多いが、保育士は学ぶことが多く、より子どもたちに寄り添えるものと考えている。</p>	

	評価結果
--	-------------

A-2 子どもの生活と発達		
A-2-(1) 生活と発達の連続性		
A-2-(1)-①	子ども一人ひとりを受容し、理解を深めて働きかけや援助が行われている。	a
(コメント)	<p>子どもたちの家庭環境や状況をしっかり把握し、子どもの行動パターンも予想できる、余裕を持った関わりをしたいと考えている。時と場合を除いては、否定的強制的な言葉は使用しないよう心がけている。</p>	
A-2-(1)-②	障がいのある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a
(コメント)	<p>個別計画を立てて、適切な支援指導ができるようにしている。</p> <p>また、担当職員は、障がい児保育研修を受け医療機関や専門機関のアドバイスや、注意事項を保護者からの伝達や、場合によっては、医療機関に出向き助言や注意事項を聞いている。</p>	
A-2-(1)-③	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている。	a
(コメント)	<p>職員間の引継ぎや保護者への連絡がスムーズに行えるよう、担当者は利用する全児童名と連絡等が記載された書面を受け取り保育にあたっている。</p> <p>子どもたちが、落ち着けるよう子どもの人数により、保育室を考えている。</p> <p>帰宅後の夕食に配慮し、お菓子でなく「おにぎり」を用意している。</p>	

A-2-(2) 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場

A-2-(2)-①	子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	a
(コメント)	<p>入所時に保護者から、既往症や予防接種の状況などを聞き取り、心配なことがある場合は特記事項への記載などをお願いし、全職員で共通認識の上で保育にあたっている。</p> <p>看護師が中心に保健計画を作成し、日々の健康管理にあたっている。体調により、給食等の献立を変更したり、その日の過ごし方の工夫されている。</p>	
A-2-(2)-②	食事を楽しむことができる工夫をしている。	a
(コメント)	<p>二階にたくさんの子どもが食事ができるランチルームがあり、年度後半より、2・3歳、4・5歳と時差で、職員と一緒に給食とおやつを食べている。</p> <p>テーブルの並べ方を工夫したりしながら、きれいな食器で、楽しく食事をしている。</p> <p>ランチルームは調理室の見える場所であり、更に栄養士も子どもと一緒に食事をとるなど子どもへの食育環境は良い。栄養士や専門講師によるおやつ作りの指導も子どもたちの楽しみとなっている。</p>	
A-2-(2)-③	乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしている。	a
(コメント)	<p>一か月に同じ献立が重ならないよう配慮し、新しい献立を取り入れるようにし、喫食状況から、好評であるものとそうでないものを把握し、必ずその理由を検討し、調理方法や、味付けを工夫し改善したりしている。</p> <p>おやつは果物を用いることが多い。</p>	
A-2-(2)-④	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	a
(コメント)	<p>内科健診や歯科健診、耳鼻科健診を実施している。健診前に保護者に気になることや相談したいことがあれば相談、もしくは一緒に立ち会ってもらっている。保護者への結果報告は、連絡帳で行っている。</p>	

A-2-(3) 健康及び安全の実施体制

A-2-(3)-①	アレルギー疾患、慢性疾患等をもつ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	a
(コメント)	<p>各家庭で受診後、保育園はその結果報告を受け適切な対応を考えている。</p> <p>アレルギー対応の献立表を作成し、使用材料を明記したうえで、改めて除去するものがあるか保護者に再確認を依頼している。</p> <p>食器類はすべてアレルギー対応食の提供であることが分かるように配慮し誤食防止に努めている。</p>	
A-2-(3)-②	調理場、水周りなどの衛生管理が適切に実施され、食中毒等の発生時に対応できるような体制が整備されている。	a
(コメント)	<p>衛生管理マニュアルに沿って、定期的に検討会を実施している。</p> <p>衛生管理者及び担当者は、調理室等トイレなど必要な消毒・清掃等の実施確認作業を常に行っている。また、点検記録をとり、周知徹底を図っている。</p>	

A-3 保護者に対する支援

A-3-(1) 家庭との緊密な連携

A-3-(1)-①	子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	b
(コメント)	<p>入所時や進級時に子どもの家庭での食事の様子や嗜好を尋ね、園での様子も伝えている。</p> <p>連絡帳を通して、家庭での食事・園での食した状況や量など互いに確認しあって、保育園の食育活動に生かしている。</p> <p>給食食材の産地は必ず明確にしたもので、それらの情報には機敏に対応できるようにしている。</p> <p>「ほけんだより」でも規則正しい食生活の重要性を知らせたり、「ふれあい保育」では、保護者にも一緒に試食し、アンケートを取る等工夫している。</p> <p>さらに、栄養士の配置の良さを生かし、家庭へのレシピ紹介をし、保護者に食育への関心を高める事も、食の充実に繋がるのではないかと期待する。</p>	
A-3-(1)-②	家庭と子どもの保育が密接に関連した保護者支援を行っている。	a
(コメント)	<p>全員の子どもが連絡帳を持ち、日々の保育所での様子が詳しく記載されている。連絡帳を通してコミュニケーションを取るようになっているが、誤解が生じるような場合は、面談で話すよう心がけている。</p> <p>互いに負担にならない程度に密に図りながら、信頼関係を築くようになっている。</p>	
A-3-(1)-③	子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けている。	a
(コメント)	<p>行事等の案内は、お手紙を配付し、行事の趣旨等を説明しながら理解を得るよう配慮している。</p> <p>年2回懇談会や面談会を希望者のみ、希望する職員と行うことができるよう配慮している。</p> <p>年3回のうち、2回は保護者、1回は祖父母による「ふれあい保育」を実施し保育への参加や給食を一緒に食べる設定がある。</p>	
A-3-(1)-④	虐待に対応できる保育所内の体制の下、不適切な養育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び虐待の予防に努めている。	a
(コメント)	<p>常に子ども達の表情、目つきに気を付けつつ子どもたちを見守っている。疑問を感じる事があれば、保護者にそれとなく尋ね情報を得るようにしている。</p> <p>保護者にアドバイスできる部分とそうでない部分を保護者の情報を見極め、アドバイスできなければ園でできる対応を検討するように配慮している。</p> <p>マニュアルに基づいた対応はすべての職員ができるようにしている。</p>	

		評価結果
A-4 子どもの発達・生活援助		
A-4-(1) 子どもの発達・生活援助		
A-4-(1)-①	体罰等子どもへの不適切な対応が行われないよう、防止と早期発見に取り組んでいる	C
(コメント)	就業規則の服務規律に、子どもへの不適切な対応が行われないように記載し、より良い援助技術を習得するよう学びあっているが、「就業規則」等の規程に体罰の禁止が明記されてないので、明記することを望む。	

利用者(保護者)への聞き取り等の結果

調査の概要

調査対象者	アミリア保育園を利用している子どもの保護者
調査対象者数	38世帯／75世帯 (51%)
調査方法	アミリア保育園には、利用している保護者の世帯ごと、登降時を利用し受取人払いの封書を添えて手渡しを依頼した。 回収には、保護者の便宜を図り、園にはアンケートポストを用意してもらい、厳封された回答を入れてもらえる準備をお願いし、また直接郵便で機関に送ることも可能であることを伝えてもらった。

利用者への聞き取り等の結果(概要)

アンケートの集計結果

「はい」が100%の項目は、
「献立表やサンプル表示などで、毎日の給食の内容がわかるようになっていませんか」
「お子さんの給食の食べ具合は、必要に応じて連絡されていますか」

90%以上

「保育園に入園した際に、保育内容や方法について、説明がありましたか」
入園後も保育園やクラスの様子などについて、「園だより」「クラスだより」等を通じて、判りやすく伝えられていますか。
「健康診断の結果について、園から伝えられていますか」
「給食のメニューは充実していますか」
「懇談会や保育参観など保護者が保育に参加する機会がありますか」があげられていた。

保護者からの苦情や意見に対して、園から「懇談会」や「園だより」などを通じて説明がありましたか。」の項目では「いいえ」「その他」「無回答」が半数であったが、ほかの項目では、「いいえ」の数も少なく、保育園に対する保護者の満足度の高さが見受けられる。

自由記述

子どもの自主性を大切に保育されている。
子どもが伸び伸びと生活できる環境だと感じる。
個性を生かした保育をしてくれている。
製作や英語に力をいれている。
行事が豊富で、親子で楽しんで参加できる。
担任の先生以外でも、子どもの様子を把握してくれている等喜びの声もたくさんあった。

他には

保育士の子どもへの注意のされかたで、気になる時があるので気をつけてほしい。
働く親として、充実した土曜日保育を望む希望が出ている。
月1回の延長無しはきついです。
等希望や意見も出されていた。

福祉サービス第三者評価結果報告書【受審施設・事業所情報】 における項目の定義等について

①【職員・従業員数】

●以下の項目について、雇用形態（施設・事業所における呼称による分類）による区分で記載しています。

▶正規の職員・従業員

・一般職員や正社員などと呼ばれている人の人数。

▶非正規の職員・従業員

・パート、アルバイト、労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託などと呼ばれている人の人数。

②【専門職員】

●社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、訪問介護員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士、社会福祉主事、医師、薬剤師、看護師、准看護師、保健師、栄養士等の福祉・保健・医療に関するものについて、専門職名及びその人数を記載しています。

③【施設・設備の概要】

●施設・設備の概要（居室の種類、その数及び居室以外の設備等の種類、その数）について記載しています。特に、特徴的なもの、施設・事業所が利用される方等にアピールしたい居室及び設備等を優先的に記載しています。併せて、【施設・事業所の特徴的な取組】の欄にも記載している場合があります。

	例
居室	●個室、2人部屋、3人部屋、4人部屋 等
設備等	●保育室（0才児、1才児、2才児、3才児、4才児、5才児）、調乳室、洗面室、浴室、調理室、更衣室、医務室、機能訓練室、講堂 等

